

5 総合評価
次年度へ向けて

・昨年度比で、最終評価、学校関係者評価(A評価)が増加した。教職員が、これまでの課題意識を踏まえ、保護者と地域とのつながりの中で日々の教育実践を協力的、協働的に行った結果であると考える。
・いじめの問題の対応について、学年主任と保護者・生徒が連携を深めた。次年度は保護者との連携を更に、職員研修を重ねるとともに、関係機関からの指導を仰ぎながら未然に防止、早期発見、早期対応に努めていきたい。
・学習の向上について、職員・生徒・保護者が授業改善や工夫がとられていると捉えている。この、本県学習状況調査の結果に結びついてい。知識・技能の確実定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む単元を通した授業改善に取り組む。
・業務改善、教職員の働き方改革については改善意識や工夫が見られる。長時間労働状態が見られる。校務分掌の平準化や年度途中にも柔軟に業務の再編成を図るなど変革することなど改善に取り組む。